

第55回試験研究成果発表会（果樹）発表概要

【日時】平成30年1月24日（水）13:00～16:05

【会場】農林総合研究センター農本館（千葉市緑区大膳野町808）

発表1 情報提供（13:10～13:30）

ナシ萎縮病の腐朽組織が拡大する条件

果樹研究室 吉田 明広

生理的・環境的要因を変えてナシ苗に萎縮病菌を接種し、腐朽長を調査したところ、摘葉処理、根切り処理、乾燥処理、雨よけハウス栽培により腐朽長は伸長し、環状剥皮により抑制されました。さらに、接種部位の木質部や師部の大きさが腐朽長に関係していることが明らかとなりました。これらにより、腐朽長が伸長しやすい条件が明らかとなり、腐朽長を抑制するための基礎的な知見が得られました。



雨よけハウス栽培試験の様子

発表2 情報提供（13:30～13:50）

ナシ萎縮病の発病部除去は有効？無駄？

—材質腐朽部位の除去がナシ萎縮病の病徴発現に与える影響—

病理昆虫研究室 金子 洋平

ナシ萎縮病の腐朽材組織の除去と発病の関係をナシ苗を用いて調査しました。腐朽材組織を除去することで、翌春の発病する苗の数は減りましたが、材質腐朽組織を完全に除去しても、発病する苗がありました。何らかの病徴発現物質が樹体内に蓄積して萎縮病を引き起こしている可能性が考えられます。



ナシ萎縮病菌による材質腐朽

発表3 成果発表（13:50～14:15）

ナシ果実の貯蔵性を向上させる方法

ー輸出の実態に合わせた鮮度保持方法ー

果樹研究室 戸谷 智明

ニホンナシ「豊水」をタイ等東南アジアに船便で輸出するには、40日程度の品質保持が必要です。そこで、鮮度保持に効果があるとされる1-MCP剤を処理したところ、無処理の果実に比べ、果実の地色の上昇を抑制し、果肉の硬度を硬く維持し、障害果の発生を抑制する効果がありました。また、輸出に向く果実の熟度や輸送中の常温日数の影響などが明らかになりました。



1-MCP 剤処理の様子

発表4 成果発表（14:25～14:50）

ナシ黒星病 春先から徹底防除を！

ーナシ黒星病における休眠期から鱗片脱落期にかけての殺菌剤散布適期ー

病理昆虫研究室 金子 洋平

ナシ休眠期～鱗片脱落期の散布適期は、ナシ黒星病の罹病芽基部を防ぐ目的においては、従来よりも旬間早い3月中旬頃の催芽期～発芽期でした。一方、出蕾初期～展葉期の子のう胞子の感染によると思われる幼果の発病が本年は多発しました。これを防ぐためには、従来の鱗片脱落期の防除を別途実施する必要があると考えられました。



ナシ黒星病罹病果実

発表5 成果発表（14:50～15:15）

定植したナシ苗木の初期生育を手軽に促進

果樹研究室 戸谷 智明

定植したナシの樹の初期生育を、手軽に促進できるシアナミド剤について紹介します。シアナミド剤を散布すると、葉芽の発芽率が90%以上になり、初期生育を促進させることができます。また、作業は水で希釈して動力噴霧器等で散布するだけであり、多くの苗木を定植した場合でも手軽に実施できます。なお、散布時期は概ね1～2月ですが、ナシの休眠状態によって変動するため、簡単に最適散布時期を算出できるシステムも開発しました。



シアナミド剤散布の様子

発表6 成果発表（15:15～15:40）

ナシ収穫前の病害防除と果面汚れの対策は？

ー収穫直前の殺菌剤による果面汚れ軽減を目的とした展着剤「まくぴか」の利用ー

病理昆虫研究室 金子 洋平

キャプタン水和剤にまくぴか展着剤を加えると7月上旬に散布しても、従来の方法で6月下旬に散布した場合よりも果面汚れは少くなりました。7月中旬以降の散布では果面汚れは発生しましたが、収穫時には問題ない程度になりました。



キャプタン水和剤による果面の汚れ

発表7 情報提供 (15:40~16:00)

ナシにおけるハダニ類の殺ダニ剤抵抗性の発達

担い手支援課 専門普及指導室 大谷 徹

ナシのハダニ類の防除に殺ダニ剤が使われますが、効果が疑われる事例が出てきたため、平成28年に農業事務所とともに、各産地のハダニを集めて殺ダニ剤に対する感受性を調べました。その結果、ナミハダニでは最も使われている剤に対して広く感受性が低下していることがわかりました。そのため、平成29年の防除暦に掲載する殺ダニ剤を切り替えました。



葉上のナミハダニ